

全国都市緑化かわさきフェア基本構想案 勉強会実施報告書

1 勉強会の経緯

・第1回の懇談会の意見（以下概要）を踏まえ、レガシーにもつながる将来像を明確に示していくため、次世代を担う若手の委員や、本市の若手職員による、合同勉強会を、以下のとおり実施しました。

日 時 令和2年11月25日（水） 午後3時から午後5時まで

場 所 市役所第4庁舎4階 第6会議室

出席者 (1)委員 池田委員、蕪木委員、倉島委員

(2)職員 総務企画局シティプロモーション推進室 3名

市民文化局協働・連携推進課 3名

建設緑政局緑政部 3名

2 勉強会の内容

(1)川崎のイメージ

・普段、川崎で生活していて、自分が感じる（または他から見られている）川崎のイメージについて、参加者で意見交換していただきました。

・挙げられた意見を整理すると時代背景で分類することができました。

【良いイメージ】 川崎フロンターレや交通の便が良いなど、最近のものが多い

【悪いイメージ】 公害や労働者など昔の川崎のものが多い

(2)川崎の魅力向上につながる方法

・川崎の魅力向上につなげていくための取組について、意見交換していただきました。

◎ SDGsの取組として「川崎の若者」が盛り上がる力を活用する。

今の若者は、SDGsの考え方に抵抗なく共感するので、ハロウィンやフロンターレの試合など、「川崎ならではの」で、ゴミ拾いやフードロスの取組を行う。

◎ 「川崎らしさ」を活用する

世界的な企業であるアップルストアが入るラゾーナで、昔ながらの地域の盆踊りをやれる「寛容さ」や、安くてうまい店のような「親しみやすさ」が「川崎らしさ」

◎ 川崎の南北交流を深める

「縦長な川崎」の住民は、横断する私鉄沿線で東京横浜へ出てしまう。一方、コロナ渦で移動が制限された時に、川崎市内を散策したことがあり、魅力を再認識できた。「南武線」の活用など、川崎市を縦断する取組を行う。